

# 月刊

№ 46 1. XI. 1984

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYÖDANKAI

## 白山釈迦道、フジミドリシジミの乱舞

中西 重雄

1983年6月20日(日曜)晴。白山山系には広大なブナ林が広がり、フジミドリシジミの分布もかなり広く、個体数も多いのではないかと思います。釈迦道へ採集に出掛けました。市、瀬と別当出合の間の舗装道路に車を止めて、林道の砂利道を歩いて、釈迦岳登山口までの間を例の如く、タタキ出しながら採集を行ったが、フジは飛び出たが、なかなか採れない。釈迦岳登山口まで行き、登山道入口のテーブルで昼食をとっての帰り道、ちょうど活動時間の3時頃、フジがポツポツと飛び出したが、木々が多く、高くてネットが届かない。見ていると、あっちの山、こっちの谷から次々と集って来ては、1本の大きなブナの梢で、20~30頭の百有飛羽が始まりました。飛翔は弱く、ちよつと梢にとまり、又飛んではとまり、その繰り返しをしている。何頭かは下へおりて来るのだが、なかなか採れず。この日得たのは、1谷のみ。しかし、白山山系には、こんなに多くのフジミドリがいたのです。そして、フジミドリシジミの青緑色の翅の乱舞、輪舞が目には焼き付き、私にとってたいへん印象深い1日でした。がしかし、フジミドリシジミへの思いは募るばかりです。

データ 石川郡白峰村湯谷(釈迦岳登山道)

1983. 6. 20 フジミドリシジミ 1谷採集 9枚目撃

## 白峰村市、瀬にてアミメキシタバを採集

吉村 久貴

1983年9月1日、弟と一緒に、白峰村方面へ *Catocala* を採集に

行った際、市瀬でアミメキシタバを採集したので報告する。

白峰の街並の中の水銀灯の下で、キシタバなどを採集していた時、レオーネ4両が横を通って、市瀬方面へ何って走っていった。さっそく追いかけて、市瀬永井旅館前に到着すると、登山センターに板井氏がいた。翌日から白山に登るといふ。

登山センター横の河原の工事現場の電燈が明るすぎて、ほとんどの虫たちはそちらの方に集まっていた。目ぼしい種は採集できなかったが、ベニシタバ、ゴマシオキシタバ、アミメキシタバ、アゲビ/コノハなどを採集した。

アミメキシタバについては、毎年、数頭ずつ白山方面で採集されている様だが、市瀬での記録はないのではないかと思ひ、報告した。

なお、同定に協力して下さった野中勝氏に感謝する。

データ 1983年9月1日

石川郡白峰村白峰

市瀬

吉村久貴・貴己採集

キシタバ 1ex

カブトムシ 16 ヲスバカミキリ 16

ベニシタバ、ゴマシオキシタバ

アミメキシタバ、アゲビ/コノハ 各1ex

ゴクワガタ 16 アカアシクワガタ 19

ウスバカミキリ 19

中の川 1982

松井 正人

1982年7月3日、晴。今年は雪が少ないため、石川郡尾口村中の川へ簡単に入る事ができた。昨年などは大雪のために、7月中旬でも入れなかった事から比べれば、今年は、はるかに雪が少なかったであろう。

岩間ヒュッテから50分位で噴泉塔に着くが、噴泉塔よりいくらか入った所に難所がある。

両岸が非常に高いゴルジュで、川中も狭いので、降雨後などは、全く通行できない。ここが通れば中の川は、つめることができるだろう。昨年などは、何度もここで引き返さざるを得なかった。

噴泉塔より90分位で、アサマシジミの発生する中州に着く事ができた。途中の小さな中州でもパラパラと、アサマシジミは発生していた。

どちらにも、イワオウギ、タイツリオウギがあって花ざかりであった。

目撃記録 1982年7月3日 石川県石川郡尾口村若間

噴集塔付近	ウラクロシジミ	1♂
	フジミドリシジミ	1♂

中の川一帯	キマダラヒカゲ sp	2 exs
	サカハチチョウ	5 exs
	ミスジチョウ	2 exs
	ルリタテハ	1 ex
	ヒオドリクチョウ	2 exs
	ウラギンヒョウモン	1 ex
	ツマシロウラシメ	1♂1♀

小笠原中州 P.M. 44 彦地中州	アサマシジミ	5♂♂ 2♀♀
	アサマシジミ	4♂♂ 2♀♀
	コノハバネセリ	1 ex
	モンキチョウ	1♂ 2♀♀
	(D?) スジバシロチョウ	2 exs

長野県へヒメギフを追って南北

その2 南編 ----- 上伊那郡入笠山  
若村 貴己

1983年5月1日に小谷村黒川でヒメギフを採集した後、筆者はゴールデンウィークの休暇を全滅で過ごし、5月5日に東京に戻った後、5月8日、長野県上伊那郡入笠山へ、長野県南部のヒメギフを採集に出かけました。(1)(2)

この日も前回の如く、7日の土曜日の午前中の授業を終え、任たくしておいた荷物をとって、小田急で所田へ伺いました。

所田から短絡線の横浜線へ入王子に出て、入王子から16:51発のアルプス7号長野経由松本行きに乗りました。

話には聞いていましたが、産間のアルプスと夜のアルプスの速度が大変違うのに驚きました。

松本に20:30頃着くと、ヒンクラ氏の友人の信州大学医学部在学中のM氏が迎えに出てくれている。かの有名ないわな屋<sup>(3)</sup>へ、いわなを食いに行きました。

M氏のアパートに泊り、次の朝5:00起床、5:30出発で、7:30頃に入笠山の牧場に到着しました。しかし、この道がひどい道でオートバイ4WDがおそろめて帰って行く程の荒れ様でしたが、こちらのセリカ2000GTは根性が違うので牧場になんとか到着しました。

牧場からポイントまでの山道を1時間程歩き、ようやくヒメギフの棲み家らしい環境に着きました。

そのポイントは、小黒川の源流をはさんで両側が伐採された斜面となったところでしたが、曇りの天気の影響もあってか、ヒメギフは全く姿を見せにくくありませんでした。

他にも、数名の採集者が来ていましたが、天気が荒れて来そうなので、一人一人帰り始めました。筆者らも車の所に戻ろうとすると、雨がポツリポツリと降り始めました。

なんとか車の所へたどり着き、車の中で昼食をとりましたが、天気の回復の見込みがない様なので、帰ることにしました。

帰る際、徒歩で下山していた東京の小平市から来ていた高校生の採集者を乗せ、富士見駅に到着しました。

ところが、入笠山の中復より下界へ下ると日本晴れで、山とはこんなに天気が違うものかと痛感させられました。

x1) 1981年採集報告 vol.2 長野県入笠山ヒメギフ採集記 吉村久貴 翔 №32 (1982)

x2) 長野県産ヒメギフの斑紋変異について 吉村久貴 翔 №37 (1983)

x3) 1981年採集報告 vol.1 松本市近郊にて 吉村久貴 翔 №31 (1982)

## 長野・群馬県境のベニヒカゲの産地帯

吉岡 泉

1983年8月12日(金)、筆者と吉村兄弟の3名は、長野県東部町から地蔵峠を通り群馬県嬭志村へ抜ける県境付近で、ベニヒカゲが多数生えているのを確認していたので報告する。

この道は長野県上田市から小諸市へ向かう途中で、菅平へ向かう道を少し越えた所から国道18号線を左折し、地蔵峠へと上っていく。峠付近の県境には、売店と大きな駐車場があり、その上部斜面にはスキー場がある。

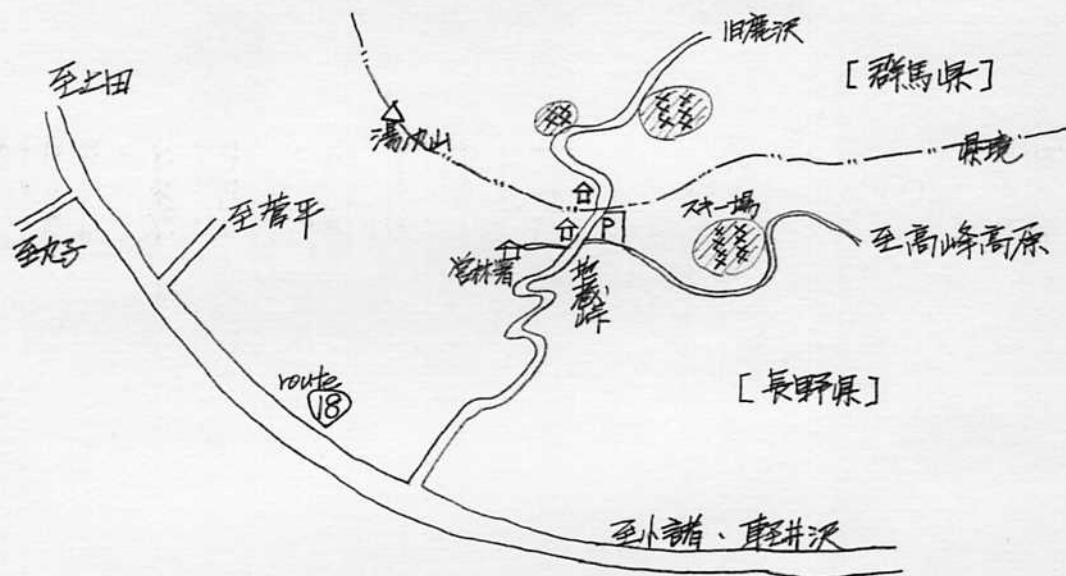
この辺りから、ちらほらと地表を翹ぐベニヒカゲが見られるが、これはほんの序の口で、群馬県側を下る道を少し行くと、左右にクマザサが繁る原っぱが、ところどころにあり、道端にベニヒカゲが翹んでいるのが見られる。

数がかなり多いので、車を止めて脇のクマザサの原っぱに入ってみると、あたり一面からベニヒカゲが翔び立った。

その数は無数と言えらるくらいで、これだけ夕産する状態は初めて見たのでかなり興奮したが、反面ガッカリしてしまった。

それまでは、小さな斜面のお花畑に数頭のベニヒカゲが舞うというイメージがあったので、貴重な種という感じがしたが、この体験で、少々その印象が変わってしまった。

ベニヒカゲは、まだまだ沢山いるのですねー。



### 富山県釜谷山 8月の蝶

松井 正人

富山県魚津市に位置する釜谷山(2,415m)は、剣岳より北方へ伸びる稜線にあって老鷹三山と呼ばれる中の最高峰である。

この釜谷山へ1983年8月6日に片貝川南又谷の釜谷より入り、7日に猶又谷左俣より下りてきた。

南又谷の遊りは例によってどうしようもなく、川の中を歩いてしまい、釜谷出合まで4時間かかってしまった。

途中、鬼場倉出合でアサマシジミを捜したが、ヒメシジミしかみられなかった。

釜谷出合の標高は約1100mであるが、谷を下ってきたと思われる

ベニヒカゲ 1ex を確認した。釜谷を溯っている時、さらにベニヒカゲ 2exs, クモマベニヒカゲ 1ex を目撃した。

釜谷上部には、オダ雪溪が残っていてガスが谷にたちこめていたため、天気の良いのにかがわらず視界がきかず、蝶は全く見る事ができなかった。

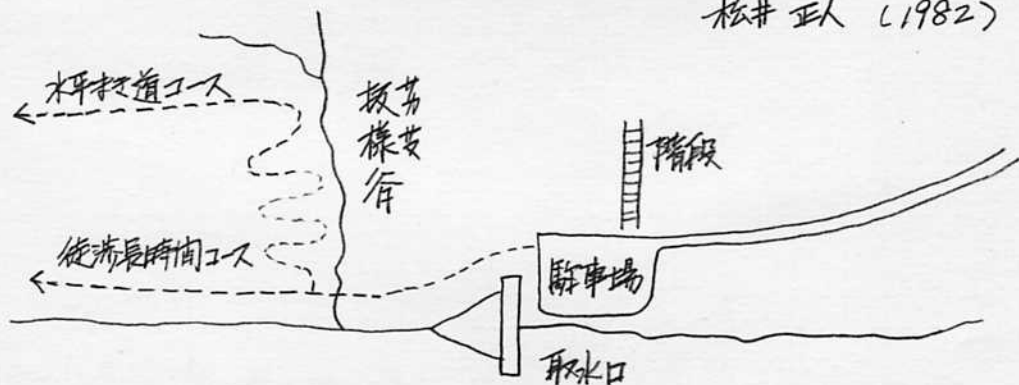
7日になると天気はさらに良くなり、後立や剣を見ながら稜線を歩いている時には、次の様な蝶が見られた。

7日 釜谷山	ベニヒカゲ	1ex
	クモマベニヒカゲ	数頭
	クジャクチョウ	3exs
	マサギマダラ	1ex
	キアゲハ	1ex

下りに通った左俣最上部にある急斜面の草付は、クモマベニヒカゲの発生地らしく、多数の本種を見る事ができた。

鬼場倉出合からの下りは、左岸にまき道を見つけ、釜谷出合より2時間で取水口に到着してしまった。

参考文献 雑 31. 片貝川南又谷にてアホマジミを確認  
松井 正人 (1982)



[南又谷まき道入口付近の略図]

ヒメオオクワガタ秋期採集例

野中 勝

1983年10月23日、白山新道にてフジミドリシジミ採集中にヒメ

オオクワガタ♂を採集した。

その個体は、伐採地に接して林縁に位置する5~6mのブナの小木の中段から張り出した直径1cm位の枝に静止しており、太あじと太股をしっかりと枝に巻きつけ、一見したところ、死骸の様であった。

夏期糸道道のヤナギの生木に本種が多数集まることは、入場 隆氏の報告<sup>\*)</sup>以来、多くの人々によって確認されているが、10月下旬の採集例は珍しいと思われ、あるいは、これが越冬能を示す可能性もあるかと考え報告しておく。

\*) 入場 隆 「白山のクワガタ」 とつりばち (1979) №43

P3~4

寄生バエなんて恐くない

野中 勝

能登半島に於けるクロコムラサキの越冬幼虫の採集は比較的容易であり、初めての人でも一日に数十頭は得られる。

しかし、飼育となるとこれが意外に難物で、現に数年前までは、石川県のムシ屋の間に「クロコムラサキの飼育は不可能である」という神話が語りつがれていたし、今でも「全滅」とか「一匹しか羽化しなかった」などという話をよく聞く。

そういった一部の飼育音痴の人々は論外としても、未だに幼虫の50%以上を羽化させ得た人は知らない。

主要な問題は越冬中の管理であり、僕の場合はここで50%位しか生き残らない。

越冬中、茶褐色をしていた本種の幼虫は、越冬からさめて活動を始める頃には薄よごれた黄緑色になり、一回目の脱皮を終えると、美しい緑色に変化する。

ここまでくればひと安心なのであるが、もう一つ憎くき敵が残っている。それは寄生バエで、きれいな緑色に変化した幼虫の体皮を破ってウジが脱出するのを発見した時には、思わずひねりつぶさずにはいらぬ。

しかも門前産の幼虫の被寄生率は2~3割と比較的高いのだ。今年もどつやら無事に冬を越したと思われる十数頭の幼虫を調べていたところ、脱皮前の一頭と、脱皮後の一頭の計二頭の尾部に寄生を受けていることを示す黒い小点があることを見出した。

これまでの経験は、ほぼ100%この二匹からはウジが脱出すること

を教えていた。

そこで、昔、月刊むしか Tsu-I-So に出ている針で寄生バエを突き殺すという方法を試みる気になった。

方法は単純で、シガ製3号ムシピンで、黒点めがけて2~3回突きさしただけである。

幼虫は体をくねらせて痛がり(?)、体液が少量流れ出したが、まもなく自然に止まった。

昆虫にどのような形の凝固糸が存在するかは僕の専門からは興味深い点であるが、それはこの際置いておいて、とにかくこの二匹は以後順調に成長し、脱皮し、全く正常な成虫が羽化した。

この方法は意外に簡単にうまく行く様なので、皆様にも是非ためして頂きたい。アサマシジミヤセフなどにも有効だと思われる。

### 採卵会、かじかむ身で卵を採る

松井 正人

滋賀県の柏原へキリシマミドリシジミの採卵に行く話が11月20日に決まっていた。しかし、なぜか11月27日の一週間遅れとなってしまった。

27日、金沢は早朝より雪、あられ、みぞれ、現地柏原も真白で、山に入ると積雪は約30cm、多い所では50cmあり、木々は重く雪をかぶっていた。

大きなアカガシはたくさんの雪で枝が大きくしなってしまい、良さそうな枝がよくわからず、また小さなアカガシもすべて雪の中でどこにあるのか全くわからないので、結局、2~3mのアカガシで採卵することにしたのだが、これがまたたいへんな採卵であった。

初めのうちは指が冷たくてたまらなかったが、そのうちに麻痺してしまって感じなくなっていた。

井村氏はカップも長靴もなく、キャラバンシューズで動いていたので悲慘そのものであったが、さすがに蝶談会会長で成果はカップ着用組をはるかに越えていた。

この悲慘な体験を生かして「採卵スゴロク(積雪編)」を作り、骨折長期療養中の中西氏にプレゼントする予定であったが、自分で上っからと思っているうちに退院してしまった。



森本付近の注目すべき樹木

松井 正人

1. ナラガシワ

金沢付近では全く見られない様であるが、森本付近には純林も見られ、一部では多い様である。冬芽が大きくてゼフ類の飼育には最適で、ウラジロミドリシジミヤヒロオビミドリシジミには最良であろう。ところが残念なことに、今のところナラガシワよりゼフの卵は得られていないのである。

金沢市花園八幡, 月影, 梅田, 観音寺(多い)

2. ヤマナラシ

この木が何の食樹であるか知らない虫屋はいないであろう。医王山にもポツポツ大木が見られるが、森本の低山地にも見ることが出来る。

春に四坊で見つけた15本程ある所などは、他の木とは違う樹着が遠くからでも容易にそれと見てとれた。

金沢市四坊, 南千石

3. ハリギリ

ナラガシワを捜している時に見つけたものであるが、森本付近にはポツポツ大木が見られる。

1984年にはキバネセセリを見つけようと何度も出かけて登ったのであるが、幼虫は見つからなかった。

金沢市朝日, 榎尾, 四坊, 四坊高坂, 地代, 東原, 深谷,  
南千石,

白山スーパー林道でキベリタテハを採集

山岸 善也

1984年10月1日、白山スーパー林道 1300m 付近で、キベリタテ

ハ16を採集した。  
個体は完全品であった。

《お知らせ》

竹谷氏より、前回の例会の際に「石川虫の会を通じて、白峰村・緑の村に標本を寄付することが依頼されているとの旨、連絡が  
ありましたが、標本管理の徹底を条件に全面協力することとな  
りましたので、会員各位の御協力をお願いいたします。  
なお、原則として県内に分布する種の県内産標本が好ましい  
ようです。

目 次

白山秋遊道フジミドリシジミの乱舞	中西重雄	1
白峰村市、瀬にてアミメキシタバを採集	吉村久貴	1
中の川 1982	松井正人	2
長野県へヒメギフを追って南北		
その2...南編...上伊那郡入笠山	吉村貴己	3
長野・群馬県境のベニヒカゲの産地帯	吉岡 泉	4
高山県釜谷山8月の蝶	松井正人	5
ヒメオクワガタ秋期採集例	野中 勝	6
寄生バエなんて恐くない	野中 勝	7
採卵会・かじかむ手で卵を採る	松井正人	8
森本村近の注目すべき樹木	松井正人	9
白山スーパー林道でキバリタテハを採集	山岸善世	9

新 46

1984年11月1日(木)発行

発行：金沢市大場町東871-15 松井正人、百万石蝶談会

編集・校正：吉村久貴